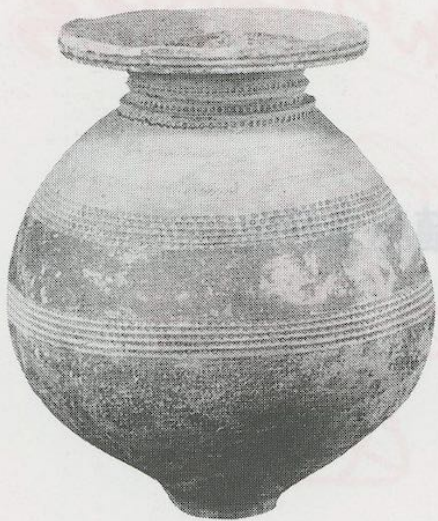


## 土の中からのメッセージ⑥

古井地区は、「川合」という地名が示すように木曾川と飛驒川の合流点にあります。太古、この両河によっていくつもの河岸段丘が造られ、その上で人々は生活を始めました。

中でも、川合町の大牧（川合町四丁目）から太田橋（御門町二丁目）に至る川沿いと、加茂高校（本郷町二丁目）から古井近隣公園、霊泉寺（中富町二丁目）に至る高山線沿いには縄文時代から古墳時代にかけての多くの遺跡や古墳があります。しかしながら、現存する古墳は赤池一号古墳（墳丘直径一九㍎）のみです。

左の写真は、新太田橋上流の



「かめぶち亀淵遺跡」から出土した壺：  
（林由是氏所蔵、現在岐阜県博物館常設展示中）です。

胴部の下部がベンガラ（酸化鉄）で赤く彩色されたこの土器は、中部地方の弥生時代後期の土器を代表するものです。古代ギリシャの宮廷の壺に似ていることから、「パレススタイル土器」と呼ばれています。

華麗に彩られたこの赤には、弥生人のどんな思いが込められているのでしょうか。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

（平成四年八月分）

○舟のかい、竿、など舟道具一式、石マンガなど 八点

（白木太郎さん／川合町）

○昭和六年の薬袋など 八点

（西城勝利さん／山之上町）

○大正期の嫁入道具など 六点

（林タツエさん／太田本町）

○せいろ 一式

（井戸正一さん／田島町）

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。資料は見せていただくだけでも結構ですので、市社会教育課（☎内線362）まで情報をお寄せください。